

子どもたちが輝く明日を



子育てにおけるニーズや課題は、地域によって異なります。このため国は、各自治体の実情にあった支援を実施することを定めた「子ども・子育て関連3法」を公布。島田市においても、平成27年度から子どもたちの未来を支える新たな制度をスタートすることになりました。

☎ 児童課 ☎ 36-7159



子育てに優しいまちづくり

「子ども・子育て支援新制度」では、子どもの教育・保育、子育て支援を総合的に進める新しい仕組みを目指しており、次の3つの目的を掲げています。

(1) 質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供
幼児教育と保育を一体的に提供する「認定こども園(※)」制度を改善し、その普及を促進します。

※幼稚園と保育所両方の役割を持つ施設で、就学前の子どもに幼児教育・保育を提供する機能をもつほか、地域における子育て支援を行う機能を備え、保護者が「働いている、働いていない」にかかわらず利用できる施設のこと。

(2) 保育の量的拡充・確保、教育・保育の質的改善
地域住民のニーズを踏まえ、認定こども園、幼稚園、保育所、小規模保育など、計画的に整備し、待機児童の解消や多様な教育・保育の充実を図ります。

(3) 地域の子ども・子育て支援の充実
地域における子ども・子育てに関するさまざまなニーズに応えられるように、自治体の実情に合わせた子ども・子育て支援の充実を図ります。

市では、こども館の設置や小中学生の医療費を現物給付にするなど、「子育てに優しいまちづくり」を進めてきました。新制度においても、これまでと同様に、市民の皆さんのニーズを十分に反映した「島田市

新制度スタートまでの流れ

平成24年度
「子ども・子育て関連3法」の制定

平成25年度

【国】子ども・子育て会議の設置、具体的制度内容の検討
【市】島田市子ども・子育て会議の設置、ニーズ調査の実施など

平成26年度

【国】施設に支払う費用などの検討、利用料金の基準額などの検討
【市】子ども・子育て支援事業計画の策定、認定証の交付など

平成27年度

本格スタート(予定)



よくある質問



Q 新制度でどのように変わりますか？

A 新制度に基づく施設を利用するには「認定証」が必要になります。

- ①新制度に基づく幼稚園や保育所などは、市からそれぞれの児童の保育の必要性に応じた「認定証」の交付を受けることで利用できます。新制度に基づく施設であれば、どの施設を利用しても、個々の認定内容に応じて、利用者負担を越える部分は「施設型給付費」という費用が施設に対して支払われます。
 - ②幼稚園や保育所とは異なる、主に3歳未満児を対象とする小規模な保育施設を利用するときでも、その施設が一定の基準を満たしているとき、利用者の認定内容に応じて、事業者には「地域型保育給付費」という費用が支払われます。
- ※ 独自の学校教育を展開するため、一部の幼稚園では、新制度の適用を受けないことがあります。

Q 利用料金はどうなりますか？

A 幼稚園も所得に応じた負担になります。

新制度に基づく施設の利用料金は、保護者の所得に応じた金額になります。各幼稚園で決めていた幼稚園の利用料金についても、保育所と同じ仕組みで金額を決めることとなります。金額などの詳細については、国が定める基準額などが決定次第、お知らせします。

Q 今の幼稚園や保育所は変わりますか？

A 新制度に基づいた「認定こども園」に移行する場合があります。

一定の基準を満たした既存の幼稚園や保育所は、運営法人の判断で「認定こども園」に移行することができます。

※ 認定こども園は、幼稚園と保育所の両方の良いところを生かした施設です。

皆さんからいただいた意見を参考に、子どもたちの個性を育み、輝く明日となるよう、より一層、子育て世帯の気持ちに寄り添った計画づくりを進めていきます。

自由意見
「放課後児童クラブの時間帯や利用できる学年を延長してほしい」「子どもたちが屋外で遊べる場所がない」「仕事をしながら子育てできる保育園などの環境を充実してほしい」

②市が独自で設定した質問「島田市は子育てしやすい環境ですか」に対し、「大変子育てしやすい」「まあまあ子育てしやすい」を合わせた75・1%の皆さんに、子育てしやすいと感じているとの回答をいただきました。
(回収率/66・8%)

【調査の状況】
①未就学児・小学生がいる2524世帯に配布したところ、1687世帯が協力してくれました。
新制度では、各自治体が主体で支援を実施することになるため、市町村ごとに「子ども・子育て支援事業計画」を策定します。子育てしやすい島田市らしい支援計画にすることを目的に、保護者をはじめとする関係者による「島田市子ども・子育て会議」を設置するとともに、未就学児・小学生の子育て世帯のニーズを把握するための「子ども・子育てに関するアンケート調査」を行いました。

らしい支援」を行っていきます。

子育て世帯に寄り添って



あまのやすこ
天野靖子さん(旭町)
のぶた
天野陽太くん(1歳5カ月)

子育て中の家庭への理解と協力を
私はいつも、子育て教室やママたちが活躍するイベントを子育てカレンダーやインターネットで探して、興味のあるものに参加しています。それは、ママ友ができたり、子育ての情報交換ができたりと、とても役立つからです。ママ友と話していると、子どもが手を離れた後の再就職への不安などをよく耳にします。例えば「雇用はフルタイムで働ける人が優先なのかな」「幼い子どもは病気になるから、初めての職場だと迷惑を掛けてしまうかな」など。ぜひ企業でも、子育てに関する社員教育を取り入れるなどして、子育て中の家庭への理解と協力を促してほしいです。

また、子どもたちが楽しみながら学んだり、体験したりできるパリエーションに富んだカリキュラムの教室が地域に一つあるといいですね。育児中は、あまり時間がないので、一度申請するだけで、同じ施設のいろんな教室に参加できたらうれしいです。